



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(五十八)

全曹青と加盟曹青会の支援活動に対して、多数のご支援・ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。特に大本山總持寺祖院さま・永光寺さまは宿泊場所を提供していただき、活動の拠点となっております。今後も復興へ向けて、青年僧侶で力を合わせて支援活動を継続してまいります。

発災直後の活動

一月一日の発災直後の一六時過ぎに、テレビなどのメディアで緊急地震速報・大津波警報が報じられると、会員の安否情報や被害状況の確認が行われました。この時点では詳細は不明でしたが、甚大な被害があると予想されたため、二〇時からZoomを用いて



「令和六年能登半島地震」への支援活動のご報告

副会長 宮本 昌孝
みやもと しょうこう

今後の対応について協議することを決定しました。この間にも、会員から報告や修行仲間からの情報提供、SNSなどで徐々に被災状況が明らかになってまいりました。

問題となったのは、現地に行くことが可能なのか、可能であっても余震などの危険性をどう考慮するのかということでした。そのような中で、金沢市の出向者から、位牌や仏具の落下などはあるが建物には大きな被害はなく、市内の状況も比較的落ち着いているという情報が入ったので、一月三日には支援物資の提供・運搬を開始しました。この支援物資の提供・運搬は加盟曹青会とともに一月末まで活動しております。

石川県や近隣の県では、一月三日に

は水やポリタンク・ブルーシートが欠品している状況でした。曹洞宗石川県青年会会長・川端孝法師と協議し、四日に「全曹青災害ML」で水とポリタンクを募集させていただきました。皆



さまの迅速なご協力のお陰で、九日には充分な数量を揃え、被災地に届けることが可能となりました。

避難所・寺院への支援活動

当初は、全曹青や各団体がそれぞれの繋がりで炊き出しなどの避難所への支援活動をしておりました。しばらくして二次避難がはじまると、避難所の閉鎖、避難者数の増減などで調整が難しくなっていました。

そのようなときに、避難所運営を担ってられるシャンティ国際ボランティア会（SVA）さまからお声がけいただき、輪島市門前町を中心に支援を継続しております。避難者からは「曹洞宗のお坊さんの活動で力をいただいた」との声もいただいております。今後は行茶活動なども検討しております。

また、被災した寺院への支援活動を行っております。

ります。瓦や瓦礫の撤去はもちろんですが、寺院には位牌や仏具など、一般の方ではどのように扱っていいかわからないものが多数あります。

揺れが大きかった地域は、檀信徒の住宅も被災しており、今なお避難所におられる方も多数おられます。過疎化も進んでおり、人手が不足している状況です。

二月以降は、この二つを支援の中心としており、全曹青で把握している現地で活動した団体は二〇を超えています。活動を計画している加盟曹青会のコーディネートとアテンドを全曹青・曹洞宗石川県青年会・SVAで行っており、今後も継続してまいります。



● 執筆者プロフィール

宮本昌孝

全国曹洞宗青年会副会長

山口県曹洞宗青年会